

文化財センター通信  
【かぎぐるま】

# 風車

第 14 号

平成17年 9月15日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

### シンポジウム

#### 『県指定史跡 水軒堤防を考える』 — その築造年代と今日的意義 —



水軒堤防遠景（南から）

平成17年7月9日（土曜日）

財団法人 和歌山県文化財センター

後援：和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会  
和歌山大学教育学部 和歌山地方史研究会  
社団法人和歌山県文化財研究会 養草園  
日本城郭史学会 和歌山城郭調査研究会  
和歌山弁慶研究会

- 13:00 開会
- 13:00~ 開会挨拶・講師紹介
- 13:05~ 仲原 知之(財)和歌山県文化財センター副主査  
「水軒堤防の発掘調査について」
- 13:25~ 北垣 聡一郎(元東大阪短期大学 教授・文学博士)  
「水軒堤防の石積み技術について」
- 14:00~ 休憩(5分)
- 14:05~ 藤本 清二郎(和歌山大学教育学部部長・教授・文学博士)  
「江戸期、西浜村の開発と水軒堤防」
- 14:40~ 此松 昌彦(和歌山大学教育学部地学教室助教授・理学博士)  
「江戸時代以降の南海地震による被害と水軒堤防の役割」
- 15:15~ 休憩(10分)
- 15:25~ 「討論 水軒堤防を考える」・質疑応答
- 16:00 閉会

【会場】和歌の浦アート・キューブ(和歌山市和歌浦南3丁目10-1)

### シンポジウム資料 表紙

シンポジウム参加者の感想

- ・一つの命題に各専門から迫るシンポおもしろいですね。(60代男性)
- ・多面的に水軒堤防を考えられることが理解できた。(60代男性)
- ・他の所で堤防を広範囲にいつでも見られる事を希望する。(50代男性)

シンポジウムでは、まず発掘調査担当者から今回実施した発掘調査成果の概要報告があり、次に、城郭史を専門とする北垣聡一郎氏、近世文献史学の藤本清二郎氏、和歌山県防災関係の第一人者の此松昌彦氏にそれぞれ講演をおこなっていただきました。最後に、会場からの質疑応答と、水軒堤防の築造目的と築造時期を中心に討論をおこないました。

『風車』第13号で発掘調査成果を紹介しました江戸時代に造られた県指定史跡水軒堤防について、石積み技法や文献資料、防災など多方面から総合的に検討していくことを目的としたシンポジウムを開催しました。

### シンポジウム開催！

当日は大雨にもかかわらず、71名の参加者を数え、盛況であったといえます。参加者の熱心なまなざしを受けて、各講師の先生方は熱弁をふるって応えていました。

## 特集！

シンポジウム

# 『県指定史跡 水軒堤防を考える』

### — 第14号の主な内容 —

1. シンポジウム『県指定史跡 水軒堤防を考える』特集！
2. 吉備町子ども古代探検隊
3. コラム【考古学の散歩道】  
「新人調査員誕生!!」
4. 和歌山県文化財センター  
ホームページ開設のお知らせ



シンポジウム会場風景

・学問的探求にとどまらない貴重な遺跡を今後どうするのかへも少し踏み込むべきでは。(60代男性)

・地元には35年住んでいますですが地元史のことを知らないなのでこの機会に少しでも勉強したい。(60代男性)

(講演内容など次頁につづく)

### 北垣先生の講演



まず「紀州流」と呼ばれる河川の堤防技術、『地方凡例録』に記載される堤防の築造方法、かつらぎ町で発掘された<sup>※</sup>田荘堤防などを通して、堤防の歴史的背景を紹介していただきました。

### 藤本先生の講演



従来、水軒堤防は寛永年間（1624～1644）に朝比奈段右衛門が築造したとされてきました。しかしこの内容のもとになった文献が現在確認できず、明治42年（1909）の『雑賀村郷土史』では、石垣堤防は徳川吉宗が將軍就任前（宝永2年、1705）に築造したという記述があることを紹介されました。また各種古文書を用いて、段右衛門の業績や周辺の西浜村の開発について説明されました。17世紀前半～中頃にかけて西浜村は開発され、その背景に水軒川改修と水軒堤防築造があったと述べられました。最後にこれらの文献資料から、17世紀前半（寛永年間）に堤防を築いたとして（寛永年間）に堤防を築いたとしてもそれは石積みではなく土盛りであった可能性があり、雑賀村郷土史を評価すると18世紀初め頃の吉宗期に土盛り堤防を石積みに改修したのではないだろうかと推論されました。

### 此松先生の講演

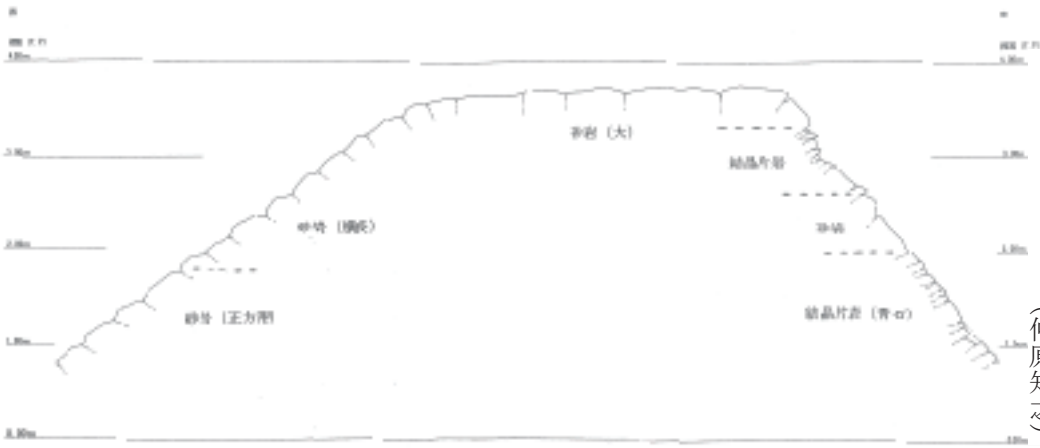


過去発生した南海地震について、特に和歌山県を中心にその規模と被害を説明されました。江戸時代以降、慶長9年（1605）・宝永4年（1707）・嘉永7年（安政元年、1854）・昭和21年（1946）に南海地震が発生していますが、水軒堤防は、宝永・安政・昭和の地震を耐え抜いてきたとされました。

次に、和歌山城や金沢城など城郭の石垣技術などを紹介したうえで、水軒堤防で用いられている石積み技術や技法について詳しく検討を加えられました。その結果、水軒堤防の石積みについては海側でも山側でも下半部が上半部より積み方が丁寧であり（技術差Ⅱ時期差か）、17世紀後半の金沢城や東本願寺・日光東照宮との比較から、下半部は17世紀後半、上半部は18世紀に入る頃（？）に造られたと考えるのが妥当であるとされました。石工については、和歌山城より加工度は精緻で、むしろお墓を加工する技術が応用された可能性があると述べられました。

築造した当時の水軒堤防の目的は特定できませんが、砂洲上に築造されており、砂洲の侵食を防ぐための護岸機能を果たしてきたとともに、結果的に津波を防ぐ役割も担ってきたとされました。現在は波浪堤防の役割はなくなりましたが、津波堤防としての役割はまだ残っていると考えられ、国指定史跡広村堤防と並んで和歌山県の防災上において重要な堤防であると述べられました。

各講師とも水軒堤防は地域の貴重な文化財であるとともに、国の宝として国史跡に指定すべき価値が十分にあるという評価をされました。（仲原知之）



石積み堤防断面図

吉備町教育委員会主催

## 吉備町 子ども古代探検隊

～発掘調査の整理を知ろう!～

in (財)和歌山県文化財センター

海南整理事務所



去る8月1日、海南整理事務所では吉備町子ども古代探検隊のメンバーを迎えて発掘調査の整理作業を体験してもらいました。

『吉備町子ども古代探検隊』は吉備町教育委員会が主催するもので、子どもたちに町内や県内の古い時代のことを知ってもらおうと年4回の講座を開き、そのうち夏休みに当たる第2回目は毎年町外に出て体験学習をするものです。

これまでにも当センターは協力業務の一環として探検隊を受け入れ、昨年度までにみなべ町大塚遺跡、和歌山市岩橋千塚古墳群大日山35号墳、

海南市の野上中南遺跡などで発掘体験してもらっていました。言わば夏の恒例行事と言っているのもです。今年は今ままで少し趣向を変え、発掘の体験ではなく、その後の整理作業を体験してもらうことになりました。

発掘現場はテレビなどで報道されよく知られているところですが、整理作業と言うのはほとんどの人が知らない世界と聞いていいでしょう。発掘の成果をまとめて本にする一連の作業を言うのですが、土器洗いからはじまって、土器の破片1点ごとにどこから出土したかを書き入れていく注記作業、その土器をジクソーパズルのように接合していく作業、さらには石膏を入れて復元する作業などさまざまな工程があります。大きな調査では、その整理に2年、3年の時間を費やすこともあります。これらの作業を実際に子どもたちにしてもらい、その難しさ、楽しさを体験してもらおうという企画でした。題して『発掘の整理を知ろう!』

さて当日。野球帽に水筒というイデタチで現れた探検隊メンバーは6

名。吉備町内の元気な小学校4年生と5年生の男の子たち。説明を聞くのもどかしく、さっそく土器と格闘開始。まずは石膏復元。石膏を使ったことは初めてとかで、水に溶かした石膏が次第に固まっていく様に不思議そうな目を注いでいました。

次にやったのが拓本作業。土器の表面に和紙を当て、その上から墨を軽く塗りつけるとアラ不思議、土器の表面の文様が現れてくる。「すごいやろ」と子どもたちに同意を求めれば「魚拓といっしょやな」と醒めた一言。ごもつとも。原理的にはいっしょなのです。

隊員にもつとも受けたのはやはり土器の接合作業でした。机一杯に並



子ども古代探検隊 土器接合作業



子ども古代探検隊 石膏入れ作業

べられた古墳時代の土器片にチャレンジ。最初は要領がわからずとまどっていました。やがて「わっ! ひつついた!」と、嬉々とした喚声が上がりました。あとはもうちよつと、もうちよつとと時間延長を乞われ、予定していた1時間をはるかにオーバーしてしまつた次第。

限られた時間の中で、どこまで隊員たちに発掘の整理作業の内容、重要性が伝えられたか心もとない限りですが、彼らの夏休みの思い出のひとつとして残ってくれればと思えました。

この日のために準備した時間と労力に余りある隊員たちの笑顔と喚声でした。

(村田 弘)

## 新人調査員誕生!!

今年の益明けから和歌山県文化財センターの非常勤調査員として働くことになった横矢晋一郎です。別府大学で考古学を学び、和歌山市文化体育振興事業団の発掘調査で現場の経験を積んで、その後、別府大学大学院にて古建築について学び、今春に大学院を修了して、改めて考古学の世界に舞い戻って参りました。

調査員として初めての発掘現場で監督をすることになり、8月29日から太田・黒田遺跡の発掘調査をしています。この遺跡は、和歌山市文化体育振興事業団などによって約60回にも及び発掘調査が行われている県内最大の弥生時代前期に始まる集落遺跡です。今回の調査地はJR和歌山駅東側の道を東へ歩くこと5分程の所にあり、太田・黒田遺跡の東端にあたり、近辺に羽柴秀吉によって水攻めされたことで有名な太田城の跡と推定される場所もあります。また、調査地近辺の黒田公園から銅鐸が出土したり、近隣の現場で弥生時代の住居跡が発見されるなど、それらに関する遺構や遺物が発見される可能性のある調査地なのです。

このような大変興味深く重要な調査地で現場監督を任せられるという重圧と、今回の調査で何が出土するだろうかという期待などで、非常に緊張していますが、太田・黒田遺跡の弥生時代の様子を解明すべく、現場監督の一人として責務を全うできるとともに、発掘調査に専念したいと思えます。

今回の調査で重要な発見があった場合は現地説明会を行いますので、発掘現場に足を運び見学をして、弥生時代をはじめとする太田・黒田遺跡の事を少しでも皆様知って頂ければ幸いです。

(横矢 晋一郎)



# =財団法人和歌山県文化財センター 9月下旬頃ホームページ開設決定=

URL:<http://www.wabunse.or.jp>

当センターでは、ホームページを開設することになりました。9月下旬の開設を予定しておりますが、ここではその大まかな内容を紹介したいと思います。

センターの紹介、埋蔵文化財課の業務、建造物課の業務を柱として構成しています。センターの紹介は、組織構成・事業計画・収支決算等運営に係わる内容です。埋蔵文化財課の業務では、主に現在実施中(実施済)の発掘調査、出土遺物整理の状況を、建造物課の業務では、業務の流れや現在実施中の解体修理事業について掲載します。事業の進捗に応じた新鮮な内容にしていきたいと思っています。

この他既刊報告書のリスト等各事業で得られた成果や現地説明会、シンポジウム等の案内も掲載しますので、是非ご覧ください。



トップページ画面

## 風車 第14号

平成17年9月15日 発行  
(財)和歌山県文化財センター  
〒640-8404  
和歌山市湊571-1  
Tel: 073 (433) 3843  
Fax: 073 (425) 4595  
e-mail  
: maizou-1@wabunse.or.jp

### 《編集後記》

ようやくこの号の編集が終わり、ひとまず水軒堤防を卒業です。和歌山市太田・黒田遺跡の発掘調査がはじまりました。みなさん見学にお越しく下さい。(仲原)